90.e2studioプロジェクトのセットアップ手順

rtk_kernelのリポジトリには、e2studioプロジェクト情報も含んでおり定義済みであるが、新しくプロジェクトを作成する時の為に手順を残す。

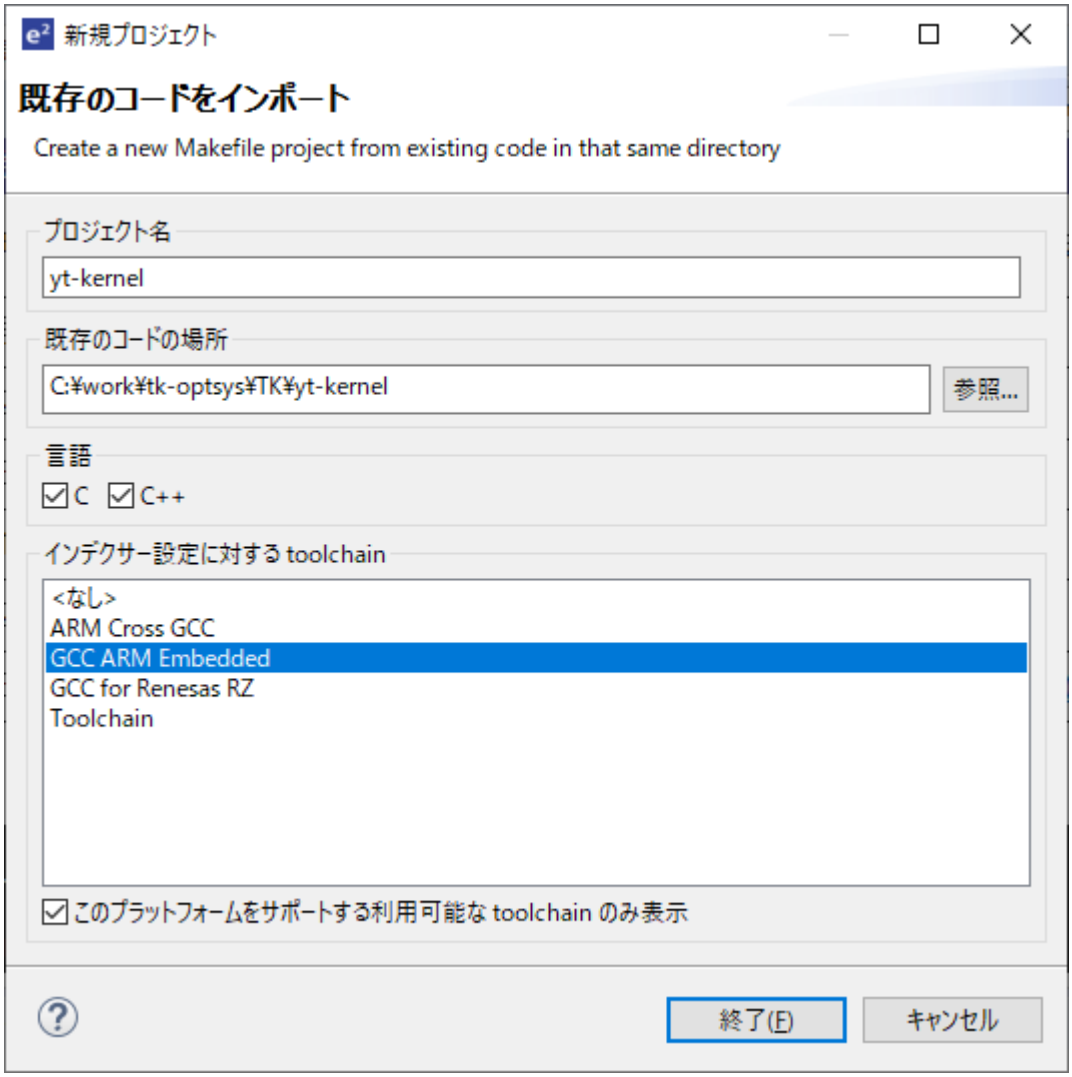
プロジェクトの作成

T-Monitor(ROM版)を例に、e2studioプロジェクトの作成手順について説明。

1）新規プロジェクト作成

ファイル > 新規 > Makefile Project with Existing Code を実行し下記項目を設定し終了

- プロジェクト名：「yt-kernel」
- 既存のコード場所：「C:\work\tk-optsys\TK\rtk_kernel」
- インデクサー設定に対するtoolchain：「GCC ARM Embedded」



2）構成を定義

下記のビルド構成を定義していく。

プロジェクト > ビルド構成 > 管理…　から [新規…] を開く。構成に適当な名前をつけて（rzt1_monitor_debug)、アクティブにする。
プロジェクト・エクスプローラから右クリックのプロパティーを開く。

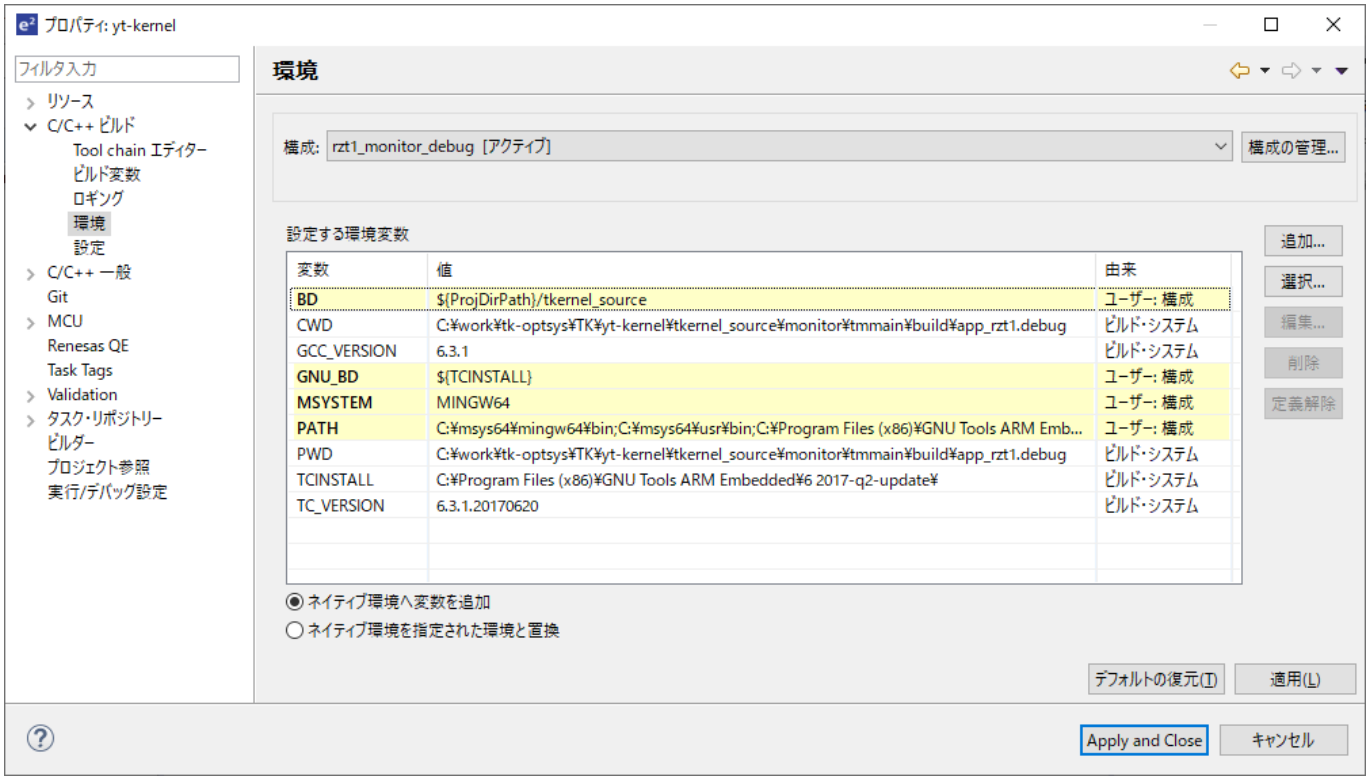
構成名	ビルド・ロケーション
rzt1_monitor_debug	${workspace_loc:/rtk_kernel/tkernel_source/monitor/tmmain/build/app_rzt1.debug}

- C/C++ビルド > ビルダー設定 > ビルド・ロケーション でビルド・ディレクトリを指定
- ビルド・ディレクトリーは関連記事[3.]を参照。右リンク→T-Monitorのコンパイル

3）環境変数を定義

C/C++ビルド > 環境 を設定

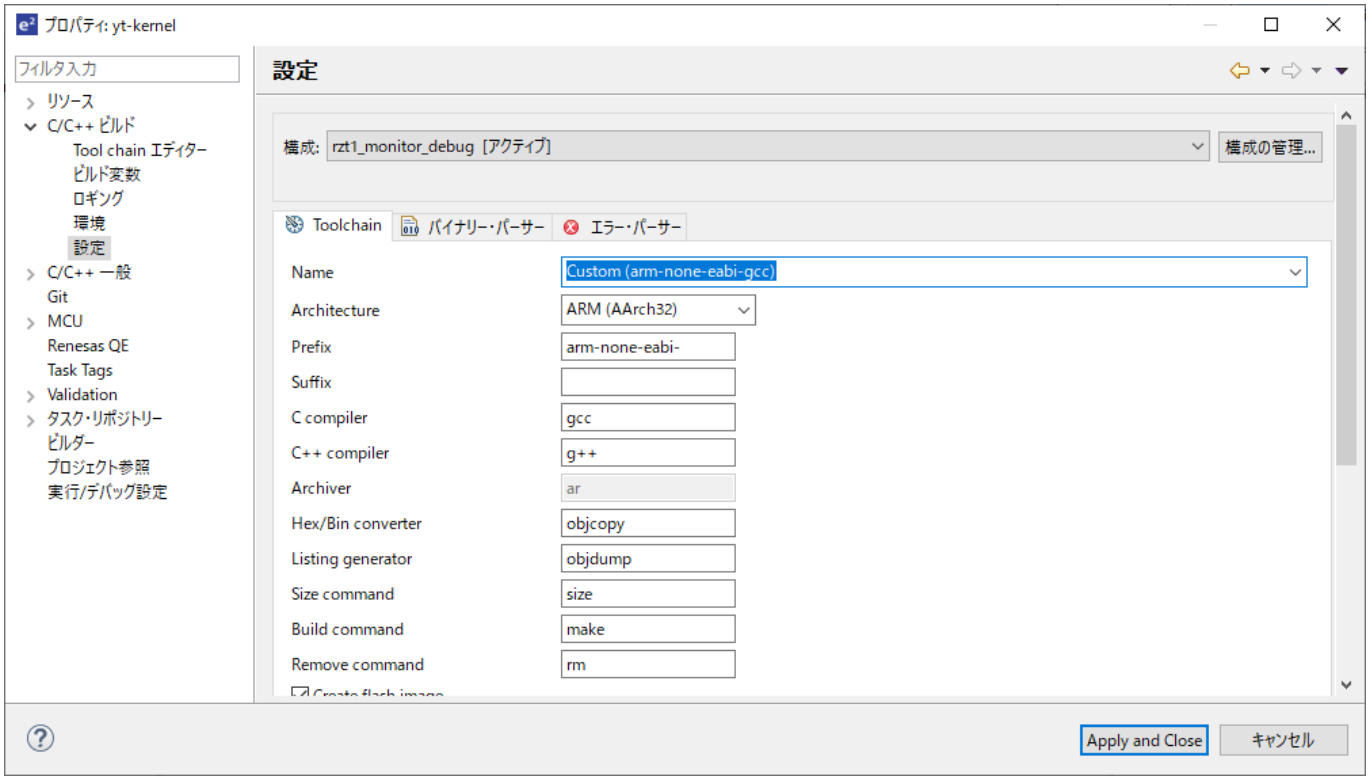
1. 「BD」変数 ${ProjDirPath}/tkernel_source を追加 2. 「GNU_BD」変数 ${TCINSTALL} を追加 3. 「MSYSTEM」変数 MINGW64 を追加 4. 「PATH」変数の先頭に C:\msys64\mingw64\bin;C:\msys64\usr\bin;[1] を追加



□□Toolchainを設定

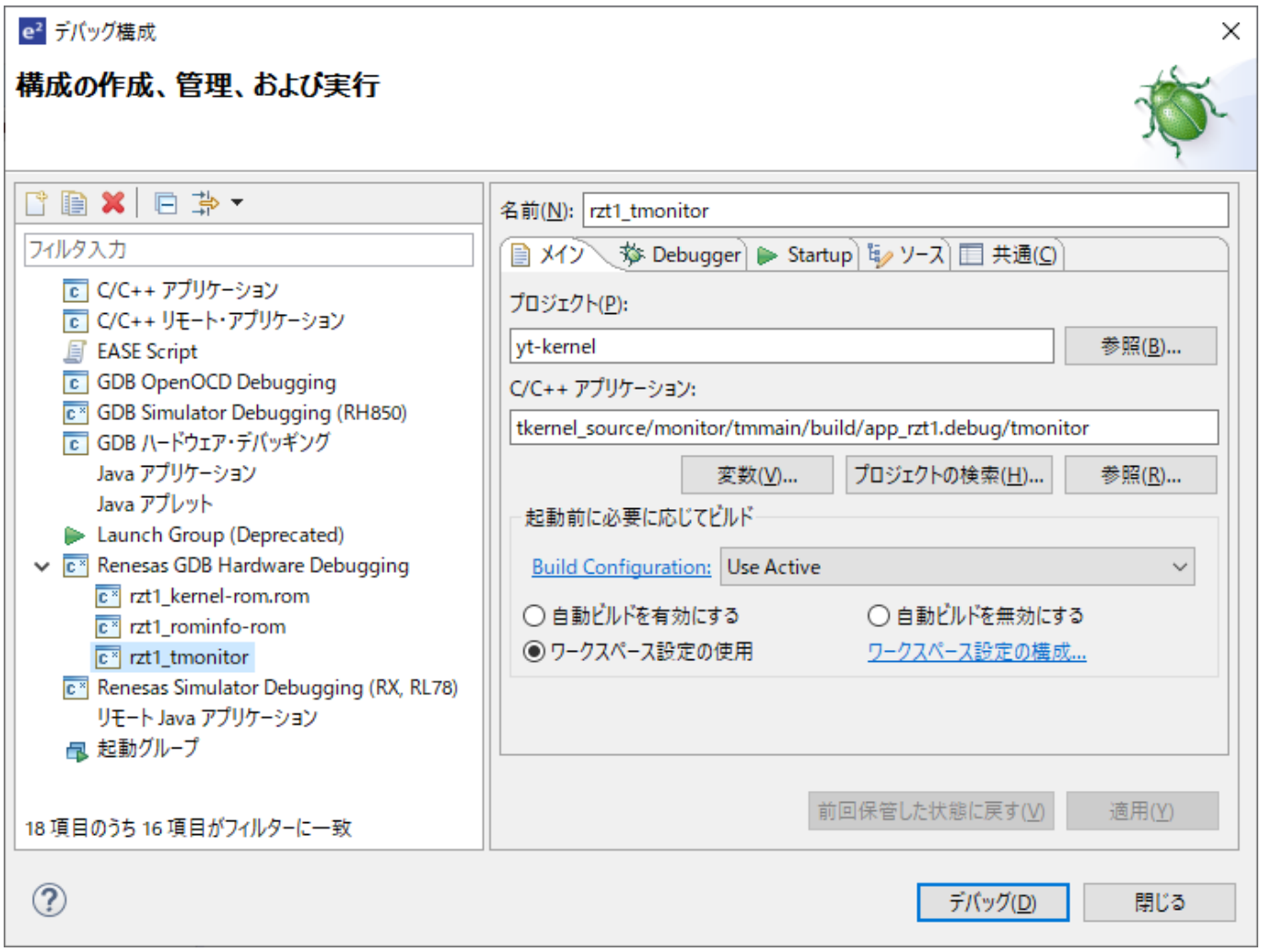
C/C++ビルド > 設定 を設定

下記のように□Custum□に設定変更しないとビルドできない時がある。(何故かこれが必要だった？？？)



デバッグの設定

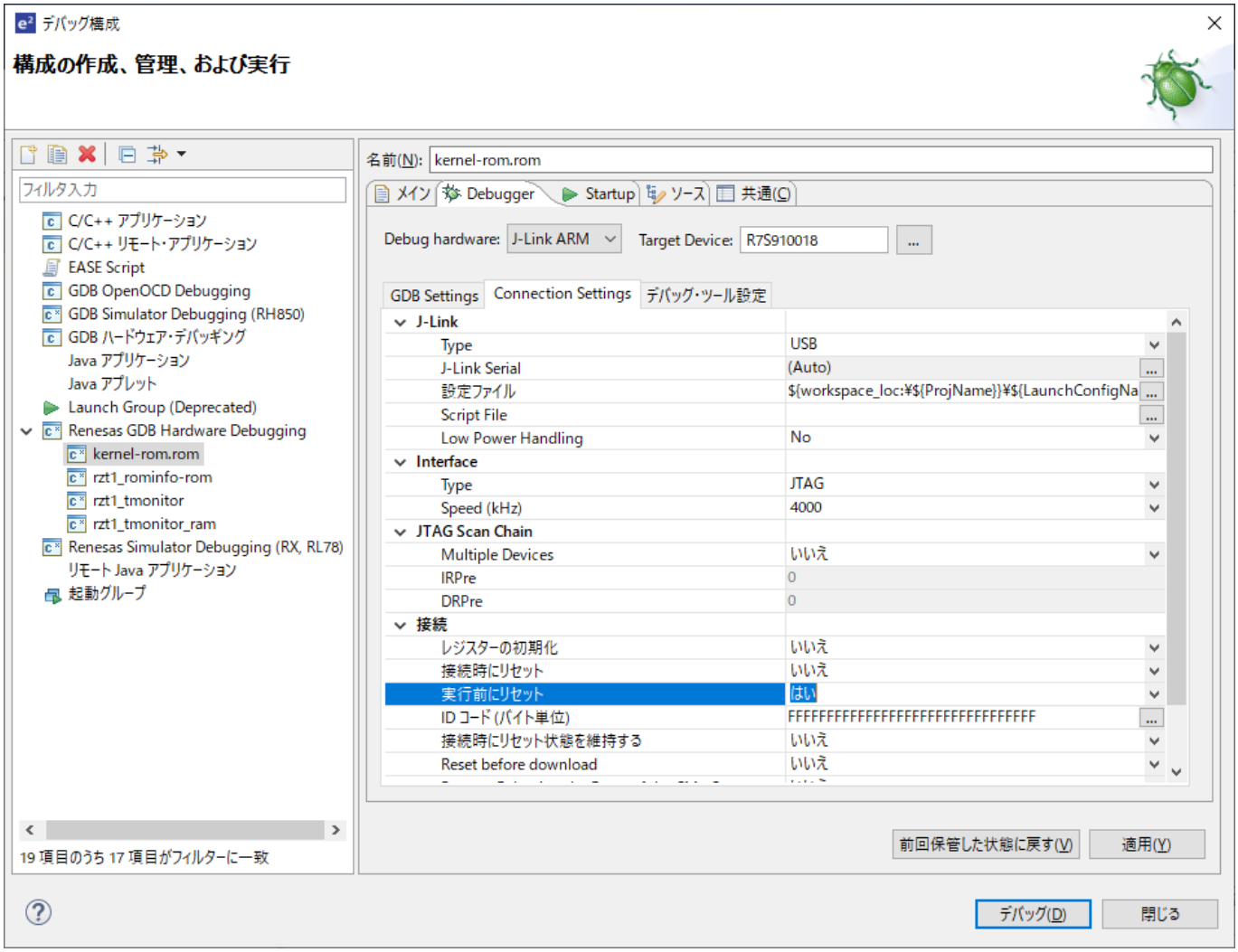
画面左側のプロジェクト・エクスプローラ中の、バイナリオブジェクトファイル名を右クリック。
デバッグ > デバッグの構成 で Renessas GDB Hardware Debugging を選択し押す。



ROM実行では、デバッグ開始時にリセット実行が必要！！

RZ/T1ではシリアルフラッシュROMからブートもできるが、ブートロードするにはリセット信号が必要
（RZ/T1のハードウェアマニュアル3.5参照）

「デバッガ構成」の設定で、Debuggerタブ > Connection Setting > 接続 で
[実行前にリセット]を「はい」にしておく必要がある。

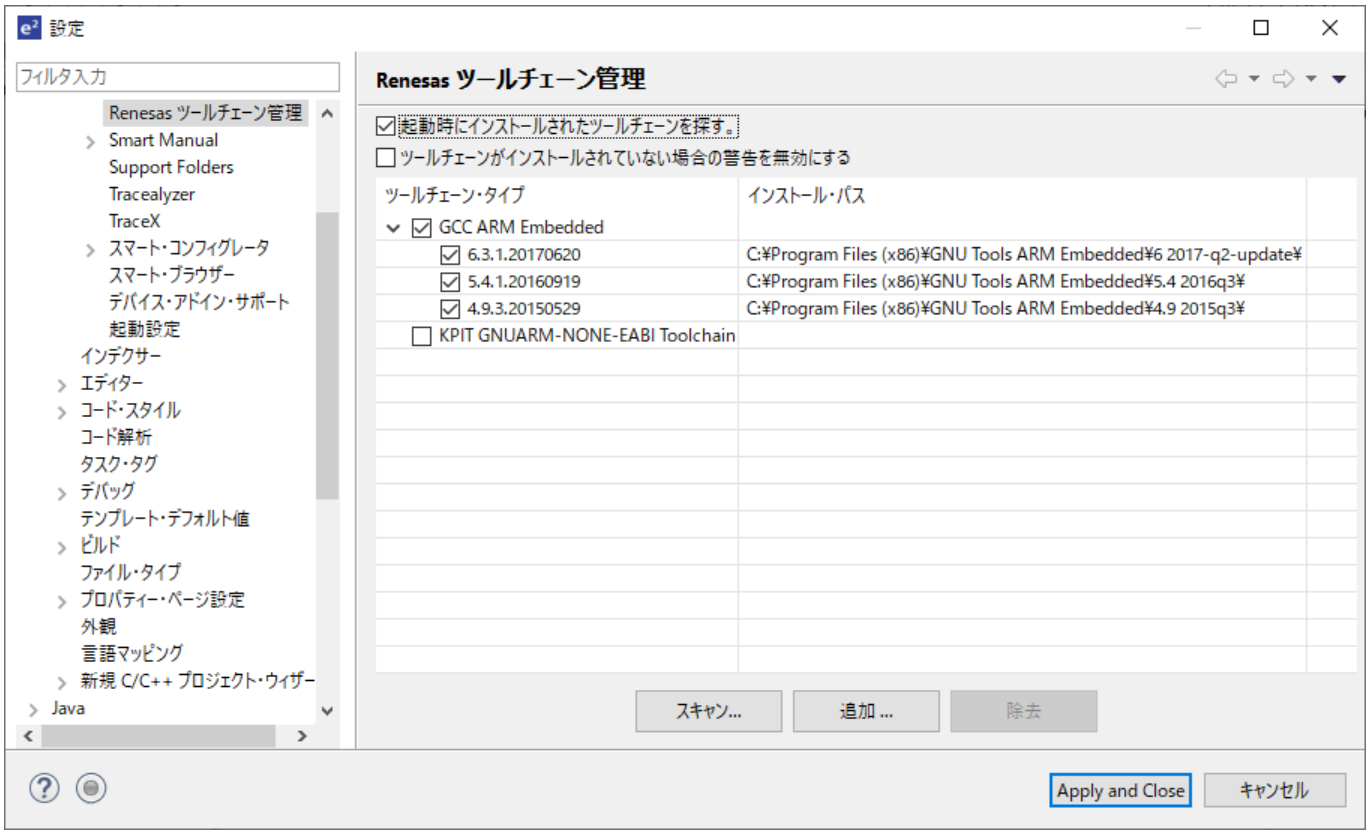


* RAMデバックの場合はリセットは不要だがJ-Linkデバッガがは RAM領域にアクセスできるようにしておく必要がある。（特にD-RAMとかはバスコントローラなど初期化が必要）

ツールチェーンのバージョン切り替え

複数の「GCC ARM Embedded」バージョンがインストールされている時は、下記の要領でコンパイルに使われるバージョンを選択する。

[ヘルプ(H)] > [Renesasツールチェーンの追加]　の画面で、使用するバージョンをチェックしてOKする。



- チェックがついている最新バージョンが使われる模様。
- T-Monitor/T-Kernelをコンパイルするには**V5.4.1**以降のバージョンを使う事。

関連記事

---

1. msys2インストール 2. e2studioインストール 3. コンソール ビルド

rtk kernel
1)
32bit版のmsys2を使ってる場合は `C:\msys32\...` を指定

From:
https://yokoweb.net/dokuwiki/ - **新石器Wiki**

Permanent link:
https://yokoweb.net/dokuwiki/develop/rtk_kernel/rtk_kernel-rzt1/build/build-e2studio/e2studio-project-setup?rev=1578374791

Last update: **2020/01/07 14:26**